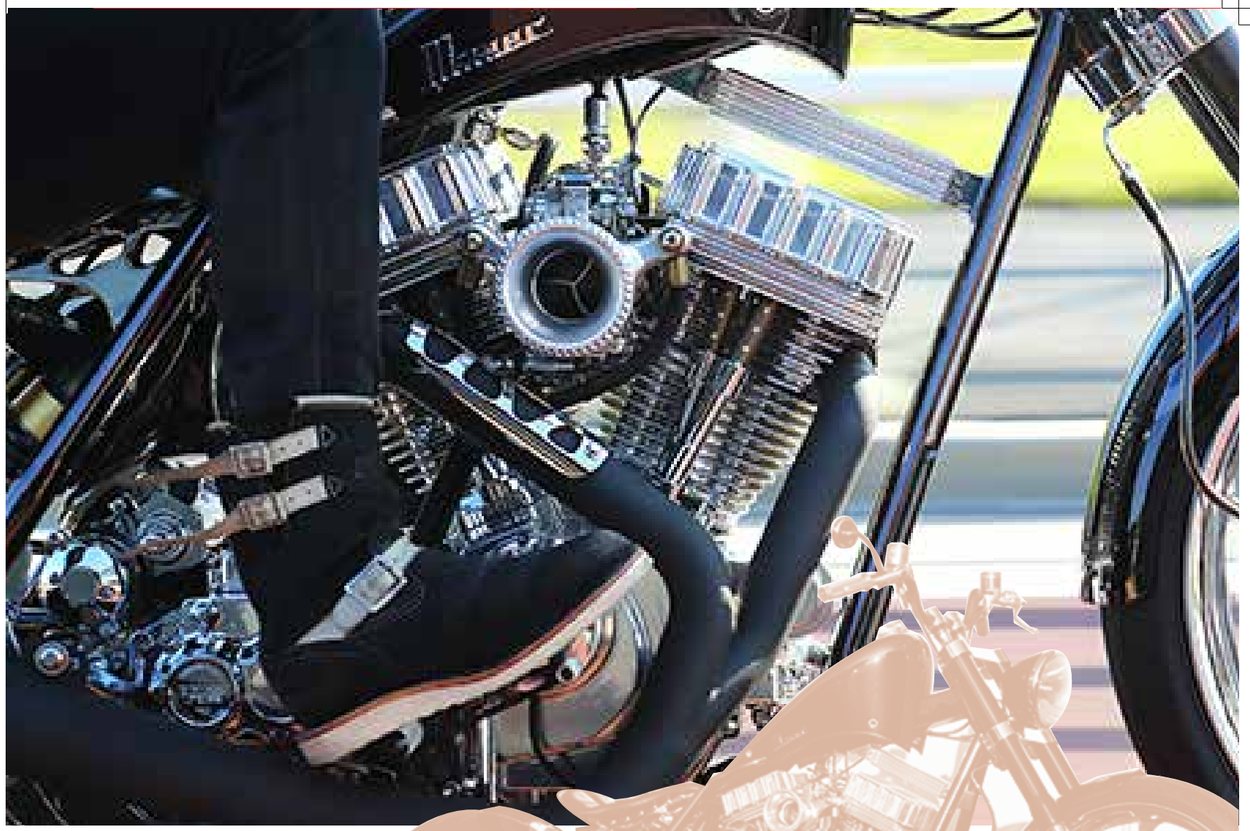

のメリット&デメリットとは?

MERIT　DEMERIT

エンジンの大排気量化に伴う魅力と注意点。

ハーレーの歴史を振り返ると、1903年の創業からこれまで数々のエンジンが生み出されたが、ビッグツインに関していえば排気量は大きくなり続けている。先日発表されたばかりのニューモデルでも、大排気量化したラインアップが増えていることや、カスタムショーを見ても、特にツインカムを中心にビッグモーターを搭載する車両が増えていること、パフォーマンスエンジンのアフターパーツの供給が増えていることからも、ユーザー的にも業界的にも大排気量エンジンに対する期待が高まっていると推測することができる。

そこで、これまで数々の大排気量チョッパーを生み出し、走りの質にもこだわるセレクテッドの西岡さんにビッグモーターを搭載する車両の魅力について聞いてみた。

「それぞれのエンジン自体にも性質があるし、ハーレーの乗り味は排気量だけでなく、カムや吸排気のセッティングが大きく影響するので、一概には言えませんが、エンジンをカスタムするということは少なからず走りに関わってくるものです。トルクが増して、加速が鋭くなったり、高速走行が楽になって余裕がもてたりと、乗り手が最も愛車の変化を感じやすいカスタムだと思うんです。そういう意味ではカスタムの本質的な部分なのかもしれませんね。外装の格好良さももちろんだけど、乗って楽しいことが一番大切ですから。」

ハーレーに乗っている人の中には『排気量が大きければ大きいほど格好いい』と考える人も少なくはないだろう。しかし、排気量を大きくすることは必ずしも良いことばかりではないと西岡さんは言う。

「パワーが大きくなれば、その分負担がかかる部分は当然でてきます。制動性を左右するブレーキやサスペンションなどの足回りの強化は必須です。また、エンジンの振動も大きくなるのでフレームへの負担も考えなければいけません。マウントやアクスルアジャスターなども見直す必要があるかもしれませんね。エンジン熱の対策も必要です。大切なのは自分が何を重要視するか。例えばオールドスクールなチョッパーはぼくも好きですが、エンジンをチューンして走りの性能を上げようとした時に、リジッドフレームに細いフロントフォークを装着している車両に極端に大きなエンジンを積むだけでは危険を伴う可能性があります。エンジンのパワーアップに伴って、愛車の各部を総合的に強化することでビッグモーターの力強さを安心して楽しむことができると思います」

Teacher.

セレクテッドカスタムモーターサイクル代表 西岡竜一朗さん

大排気量のツインカムのニュースクールカスタムを得意とする、カスタムショップ「セレクテッド」の代表。自身の愛車はS&S製95ciのツインカムチョッパーで、自身の経験も含め、ビッグモーターに関する様々なノウハウを持つ

排気量とは関係ないがフィンにダイヤモンドカットなどの加工を加えるのも効果的。クレートモーターでもオプションで加工したものを買う事ができるメーカーもある

MERIT

メリット：

1 トルクが強く、走りに余裕が出る。

乗り味に関しては排気量だけでは一概には語れないが、排気量が大きくなればトルクが強くなるので、同じ速度だとしたら、低排気量車に比べ、低回転数で巡航できるようになる。それがライダーにとっての気持ちの余裕を生み、また、高速道路の巡航では走り方によっては燃費がよくなることもある。大排気量車ならではの力強く鋭い加速も醍醐味だという。

2 カスタム車としてのルックスの変化。

美しい造形のV型二気筒エンジンはハーレーを象徴する重要な部分。性能はもちろんのこと、クルマやフルカウルのバイクとは異なり、エンジンが剥き出しのハーレーにとってはエンジンの造形が変わることは見た目の印象を大きく左右することにもなる。ビレットのカバーを採用するなど、素材自体も変えることができ、カスタム車両には特に有効である。

Q ビッグモーターって基本的にはレース用と聞くからストリートには向かない?

乗り味はセッティング次第でいかようにもなる。

Answer.

ビッグモーターに換装すると、ピーキーになり過ぎて街乗りしづらくなるとイメージする人が多いが、実際は乗り味を左右するのはカムやセッティングによる部分が大きい。排気量の増加に伴って乗り手の走り方に合わせたセッティングをすることが重要

Q クレートのビッグモーターはノーマルフレームにそのまま載せ替え可能?

メーカーやモデルによりけり。フレーム加工が必要な場合もある。

Answer.

ノーマルと比べてストローク量が増えたり、ロッカーボックスの形状によってもエンジンの寸法が変わる場合があるので、フレームの加工が必要になる可能性もある。いずれにしろセッティングはマストなので、エンジンの載せ替えはノウハウのあるプロショップに任せるのが吉

乗り味に直結するツインカムカスタムの新たな方向性。

大排気量エンジン

純正でも年々ハイパワー化するハーレーのエンジン。様々なエンジンチューニングがあるけれど、ビッグモーターのカスタムを得意とするビルダーはエンジンの大排気量化が生み出す魅力をどのように捉えているのだろうか?

text/Y.Kinpara　金原悠太　photo/T.Masui　増井貴光
取材協力／セレクテッド東京店　TEL03-6424-8265　www.selected.co.jp

DEMERIT

デメリット：

1 エンジン以外のパーツに負担がかかりやすいので強化すべし。

エンジンのパワーが上がれば、その力を受け止める部分は当然補強する必要が出てくる。代表的なのは、制動力に直接影響するブレーキやサスペンションなどの足回りやクラッチ周りなど、場合によってはフレームの補強が必要になってくる可能性もある。

2 ノーマルより熱を持ちやすいのでオーバーヒートに注意。

排気量が大きくなれば爆発が強くなり、エンジン内部の熱が上がりやすくなるので、オーバーヒートの原因になってしまう。それが後々の故障につながりかねないので必ず対策が必要だ。

対策

オイル回りの強化や空燃比を調整すべし。

エンジン熱の上昇を抑えるのには適切なエンジンオイルを使用し、マメに交換することや、オイルポンプをハイボリュームのモノに換装するなど、オイル周りの強化が効果的。また、ガスの濃さも爆発タイミングに関係するのでエンジンを載せ替えたら個体に合わせたセッティングは必須

3　2　1

今回の撮影車両であるクレイザーの補強部分。1.リアサスペンションをモノサス化してオーリンズを使用。2.クラッチはバーネットで強化。3.フロントはストーツの倒立フォークに、ブレンボのレーシングラジアルのダブルディスクに換装している

042-043.indd　すべてのページ　2015/10/23　10:15